

高齢者住宅新聞

2018年7月18日号（第502号）20面

第502号

〈第3種郵便物認可〉

高齢者住宅新聞

2018.7.18（毎週水曜日発行）（20）



▲川口グループホームの外観

開設計画は、
瀬戸口 2018年に
川崎市と埼玉県川口市
にグループホーム、東
京都立川市と横浜市に
小多機とグループホー
ムの併設施設を開設し
た。小多機は開設して
から、定員に達するま



ヒューマンライフケア
瀬戸口信也社長

全国に181事業所を展開するヒューマンライフケ
ア（東京都新宿区）は2018年にグループホーム4
施設、小規模多機能型居宅介護2施設を開設した。同
社は今後、小多機とグループホームを中心に1都3県
でドミナント展開する。

ヒューマンライフケア

「小多機」トップシェア目指す

認知症への取り組みは、
瀬戸口 認知症の発症
率を考えると、認知症

だが短期間になった
感じる。訪問介護事業
者の撤退が増え、小多
機が注目されているか
らだと考えられる。ま
た、今年度の報酬改定
により、「生活機能向
上連携加算」が見直さ
れたのは追い風になっ
ている。

デイは供給過剰のため、新設は予定してい
ない。1都3県で認知
症へのアプローチをし
ながら、小多機とグル
ープホームを中心にド
ミナント展開を行う。

将来的に小多機の拠点
数を3桁にして、業界
トップのシェアを目指
す。



対策は重要になる。認
知症にはデイ、グルー
プホーム、小多機の3
つのステージで取り組
む予定だ。デイでは予

防に取り組み、小多機
ではケア、グループホ
ームでは自宅でのサー
ビスが困難になった人
へのケアと状況に応じ
たサポート体制を構築
する。

「にしかわ体操」を導
入。また、当社独自の
認知症予防教材「認知
症に負けない大人の
学習帳」を利用者に渡
る。

地域密着型を展開 認知症対策強化へ

し、計算力・記憶力・
言語能力・思考力・空
間認識能力・発想力・
注意力の7つの能力を
鍛えることで、認知症
の予防・症状の改善を
図っている。

認知症予防・ケアの
プログラムをさらに強
化したと考えてい
る。



▲にしかわ体操を取り入れている



▲VR研修の様子

大切なと考えている。
昨年10月より、独自の
VR研修を開始した。
VR研修はスピーチロ
ック（言葉による拘
束）を利用者目線で疑
似体験できるもの、現
場において危険が發生
しそうな場所を探すリ
スクマネジメント訓練
ができるものを導入。

今までの現場のOJTに
頼っていたが、VR研
修で育成期間を短縮さ
せて現場の負担を減ら
せるように取り組んで
いる。

また、スタッフのモ
チベーション、ケアの
質向上を目的に社内独
自の認定資格「ケアア
クニカルマイスター制
度」をつくった。3段
階の資格を設けてお
り、スタッフはキャリ

アップを目指す。
今後は認知症の知見
を高める育成制度も構
築したいと考えてい
る。

今後の展開は、

瀬戸口 現在、デイ85
施設、グループホーム
27施設、小多機16施設
を運営している。

地域の介護拠点づく
りを進める上では認知
症は大きな課題と捉え
ている。既存のデイを
基盤に地域で必要とさ
れるグループホームと
小多機の併設施設を開
設していく。

また、海外市場にも
注目しており、海外で
も増加する認知症への
対応として認知症の
コンテンツを強化し、
海外にも展開してい
きたい。